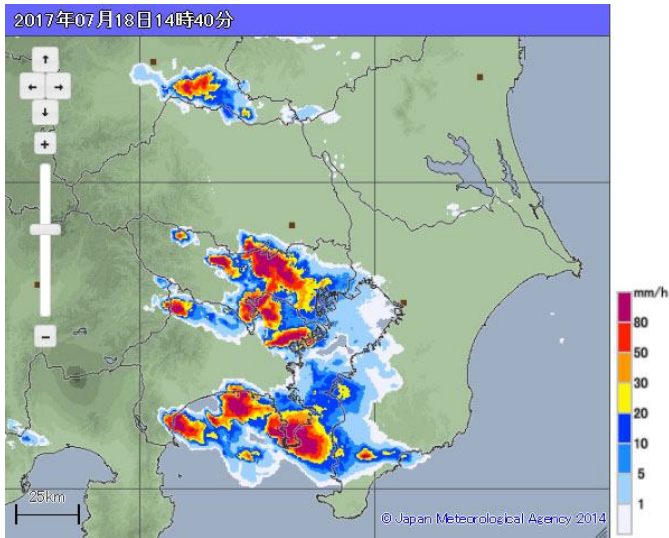


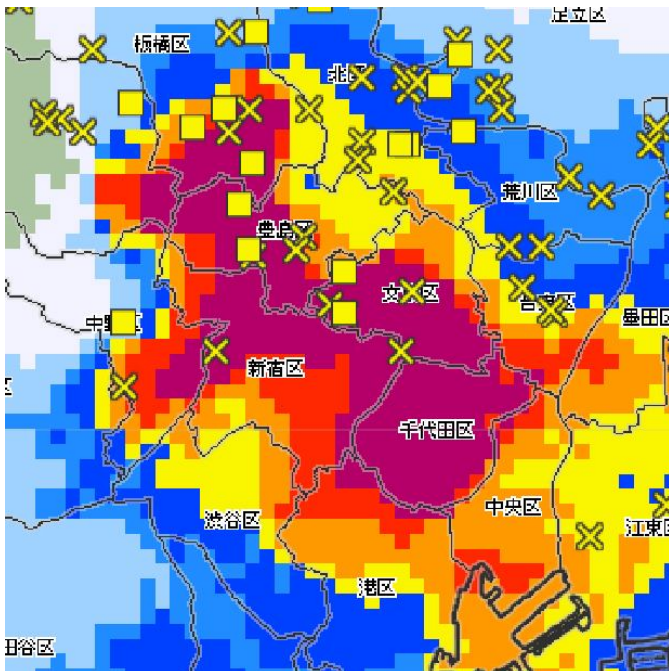
「7月18日の雷雨と雹(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

下画像は、7月18日14:40の関東地方の雨量レーダー画像である。神奈川南部、東京東部、それに埼玉北部に優勢な積乱雲の根があり、それぞれの中心付近では80mm/hという、恐るべき豪雨になっていたことがわかる。



このうち東京多摩地区から区部にかけて東進した積乱雲が、文京区を襲ったのは、15:10頃だった。この時、文京区、新宿区、千代田区のはほぼ全域が、80mm/hの豪雨になっている。下図がその時のレーダー画像である。✕は雲間放電、■は対地放電(落雷)を意味する。文京区でも実際に落雷があったこともわかる。



写真は15:10頃、文京区が最も激しい雨だった時の様子だ。大粒の雨と雹が体育館の屋根を打ち付けている。大量の雨粒と降雹の重さによって、強烈な下降気流も発生した。大気柱そのものが地面に向かって叩きつけられ、猛烈な突風を伴っていたのだ。稲妻の閃光が何度も見え、間近で雷鳴もとどろき、この世の終わりかと思うような荒れ方だった。



第二校舎への渡り階段には、雹が激しく叩きつけ、着地と同時に砕けたり、跳弾して、バリバリともものすごい音をたてている。防水の床面も、たちまち水没してしまった。1時間に80mmの雨といえば、先日の北九州の豪雨に匹敵する。仮にこの雨が本当に1時間降り続いたら、わずか1m²の範囲に、800リットル、つまり1トン弱の水が降ることになる。もし文京区全体にこの雨が1時間降り続いたら、総量は900万トンとなる。更に20時間降り続いたら、文京区の面積だけで、小河内ダムを満水にしてしまう量だ。九州北部では、実際にこうした雨が何時間も降り続いたのだ。

しかし幸い今回の雷雨は、わずか15分ほどで去り、雨はあっという間に止み、その後陽も射してきた。